

令和5年度 学校評価 自己評価書(一覧)

評価基準 A—80%以上(良い) B—60～80%未満(まあまあ良い) C—40～60%未満(あまり良くない) D—40%未満(良くない)

園学校名 安田中学校

項目	中長期経営目標	短期経営目標	短期経営目標の達成状況	自己評価	改善方策	関係者評価講評	関係者評価
知	基礎学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善・教科指導力の向上	○各種学力調査の結果。 ◆全国学力・学習状況調査(全国平均正答率+3P) ◆高知県学力定着状況調査(全国平均正答率+3P) ○総合学力調査(全国平均正答率+3P) ○授業研と授業改善。 ◆子供の自発的な学習意欲を高めるために教師が支援を意識して発問等を工夫し子どもの言葉で表現させる授業の展開。 ◆生徒同士をつなぎ、広がっていくグループ活動やペア活動を仕組む。 ○ICTの効果的な活用。 ◆東部教志塾の活用。	○各種学力調査の結果。 ◆全国学力・学習状況調査⇒+6.3 ※3年・3教科平均 ◆高知県学力定着状況調査⇒+8.7 ※1・2年・5教科平均 ◆総合学力調査⇒+2.4 ※全学年・5教科平均 ○授業研と授業改善。 ◆学校評価、授業に関する項目「私は授業がよく分かる」「私は、授業に意欲的に取り組み、自分の「学力」を高めようと頑張っている」「私は、授業の中で行う生徒間で話し合う活動を通して、新しいことに気付いたり自分の考えを深めたりしている」の肯定評価 91% ○ICTの効果的な活用。 ◆ICT機器は、研修や教員同士の交流をもとにどの授業でも適宜活用できた。町授業力向上シート2学期末「ICTが効果的に活用できた」3.4 ※4段階評価	A	◆全校研3回、チーム会ミニ授業研年3回を計画通り実施し、テーマに基づいた協議をすることで授業改善につながっており今後も継続していく。 ◆生徒の学習意欲を高めるためのめあてや発問等を考え、生徒をつなぎ、広がるためのグループ活動やペア学習を適宜取り入れることができた。ただし、全員が考えを表現するまでには至っていないので、「表現力」、「話す・聞く」の力を高める取り組みが必要である。 ◆ICTについては、引き続き効果的な活用について研究を進める。	・各種学力調査の結果が向上していることは、日々の取組の成果である。 ・グループ活動、ペア学習を通して生徒同士が刺激し合いながら学び合い、学習意欲を高める授業づくりがされており、良い取組である。 ・授業の様子からも、生徒と教員の関係の良さが伝わってくる。先生方は効果的なICT活用によるわかりやすい授業づくりに努められている。 小規模校のよさである、丁寧なかかわりと細やかな学習活動がなされている。	A
	家庭学習の定着	○家庭学習時間(1年70分、2年80分、3年90分)の達成。 ◆家庭学習調べの実施。 ◆課題の提示と提出の把握。	◆家庭学習時間調べは学期ごとに実施できた。3学期調べの結果は 1年66分、2年75分、3年121分 ◆課題の提示と提出の把握は、生徒の状態に合わせて見通しを持って行うことができ、個々の課題解決につなげることができた。	B	◆引き続き学期ごとの学習時間調査を行いながら生徒に意識をもたせる。 ◆宿題の提出に課題の見られる生徒については、状況を確認し、状況に応じた支援・指導を行うとともに家庭と連携した対応を行う。	・生徒一人一人の状況にあった支援を継続していただきたい。 ・目標とする家庭学習時間に達していない学年もあるがおおむね学校全体としてはできている。部活等もあり大変ではあるが、引き続き家庭学習の取組を継続していただきたい。	B
	朝の読書・帰り学習の充実	○集中した朝読書の継続と読書活動の充実。 ○帰り学習の充実。 ◆小社会、これ単、教科の復習に取り組む。	◆静かに落ち着いた雰囲気の中で朝の読書に取り組むことができた。学校読書アンケート「読書は好きですか」はいの回答 37%、「朝の読書は自分のためになっている」杯の回答 67% ◆各学年の帰り学習の取り組み(小社会、これ単、復習)は、生徒の状態に合わせて見通しをもって行うことができ、個々の課題解決につなげることができた。また、学習・図書委員会の全校テストの取組の時間にも充て基礎学力の定着につなげている。	B	◆新刊を約 300 冊購入し図書室の充実を図っており、今後も新刊整備を進める。 ◆生徒の状況を確認しながら帰り学習の充実を図っていく。	・10分間の短時間ではあるが、生徒も集中できるやりやすい取組であり、継続することで基礎学力の定着につながっていることが各種調査結果の成果として表れている。取組を継続していただきたい。	B
	UDに基づいた授業実践	○講師を招聘(高知大是永かな子教授)し、特別支援教育の視点に立った授業づくりを進める。	◆特別支援教育の視点に立った取り組みは、講師の助言を基に全教員で連携を大事にしながら授業を行うことができた。	A	◆来年度も是永先生の助言を生かし、学期ごとに振り合えりを行いながら対応していく。	・学期ごとに講師の助言をもと教職員が連携を図り取り組んでいくことは教員の資質向上につながり、学校、生徒にとっても良いことである。 ・講師招聘研修で教職員が学んだことを実践に繋げる中で、生徒への対応の変化等、質が向上したことがわかるような具体の姿を教えていただきたい。	A
徳	道徳教育の推進	○学年団全教員によるローテーション授業を実践する。 ○自尊感情を高める取組(ほめほめ習慣、ありがとうメッセージ等)の実施。 ○道徳だよりの発行(家庭への啓発)。	◆学年団教員によるローテーション道徳の実施は年間を通じて行うことができ、チェックシートの平均 3.5 ※4段階評価 ◆自尊感情を高める取組は、ほめほめ週間、ありがとうメッセージを予定通り行った。道徳意識調査「自尊感情」肯定評価は75% ◆道徳通信は学期ごとに発行し、道徳の授業内容や生徒の考えなどを知らせることができた。	A	◆全教員で授業を行う体制は定着しており、引き続き授業力の向上に努めていく。 ◆生徒のチェックシート「先生は自分たちの意見を受け止めてくれた」については、すべての生徒が「そう思う」と回答しており引き続き継続していく。 ◆道徳通信で「家庭で取り組む道徳」の啓発を行うことで、道徳意識調査「家庭との連携」の改善はみられたものの、肯定的評価 34.4%と依然低く、さらなる啓発を行う必要がある。	・全教員で道徳授業に取り組む体制ができており素晴らしい。 ・生徒との良好な関係が構築されていることが、チェックシートの結果からも窺える。「先生が意見を受け止めてくれた」の設問に、全ての生徒が「そう思う」と回答していることは評価できる。これからは学校全体の良い雰囲気作りをしていただきたい。 ・教員の日常の言動を児童は目にしている。日々の生活の中に見本があり学習していることを心に留め、あたたかいかわりを継続していただきたい。 ・家庭との連携をより強めていただきたい。	A
	生徒指導の充実	○「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安心安全な風土の醸成」に視点を置いた授業実践を行う。 ○学校生活アンケート、QU を実施し指導に生かす。 ○特別支援教育研修会を実施する。	◆生徒指導提要に係る校内研を実施し、課題や改善点の洗い出しや今後の取り組みについて確認した。日々の授業の中に左記の視点を意識しながら取り組むことができた。 ◆学校生活アンケート「学校が楽しい」の肯定評価 85%。QU を2回実施し2回目の結果満足群 67.6%であった。 ◆特別支援教育研修により、見通しをもって、具体的な支援につなげることができた。	A	◆全生徒が、学校生活が楽しいと感じることができるよう、学級づくりや授業づくりに取り組んでいく。 ◆学校生活アンケート・QU とも結果をもとに、その後の支援の在り方等の情報共有を行っており、今後も支援・指導に生かしていく。 ◆実施した支援の効果を学期ごとに検証しながら、継続したり、新たな支援に変えたりしながら取り組んでいく。	・学校内外の生徒の様子からも明るく好感がもてる雰囲気を感ずる。 ・教員と生徒の信頼関係構築に努めながら、一人一人に応じた支援と対応を継続していただきたい。	A

体	健康・保健教育の推進	○平日のメディアの使用 2 時間以内 80%以上、朝食摂取率90%以上、睡眠時間 7 時間以上が80%以上をめざす。 ◆生活調査(年3回)を実施し、自己管理や家庭との連携を行い、基本的な生活習慣を確立させる。 ◆全体指導と併せて個別指導が必要な児童生徒に対して計画的な指導を行う。	◆平日のメディアの使用 2 時間以内 70%、朝食摂取率 72%、睡眠時間 7 時間以上が 91% ※3学期調べ ◆学期ごとに実施し、自身の生活の振り返りや、保護者に確認とコメントを記載してもらうことで状況を把握してもらうことができた。 ◆学年ごとに結果をもとに生活改善のための授業を実施した。	B	◆生活習慣に課題のある生徒は固定化しており、その保護者の中には、困り感もみられているため、個人へのアプローチはより必要である。家庭を巻き込んだ取り組みを継続することが今後の課題である。	・朝食摂取率が低いことが気がかりである。 ・家庭での声がけ、会話等、普段のかかわりの中で見直しを図っていく必要があるため、家庭との連携を継続して取り組んでいただきたい。	B
	体力・運動能力の向上	○体力の総合評価 C 以上 70%以上をめざす。 ◆朝の会でのグーパー運動、ジャックナイフストレッチを行い握力、柔軟性を養う。 ◆ランニング等の継続的な取組を行い体力向上に努める。 ○「運動することはすきですか」、「体育の授業は楽しい」の肯定評価90%以上をめざす。 ◆体育授業の改善・工夫、委員会活動等の充実により運動が好きな生徒を増やす。	◆体育の総合評価 C 以上 80.6%。全校、学級、体育授業、部活動で取り組むことによって、運動嫌いな生徒も見学することなく取り組み、体力も向上した。 ◆「運動することはすきですか」78.7%、「体育の授業は楽しい」97%	A	◆評価 E の生徒が改善できるような取り組みを検討する。 ◆運動嫌いであっても、体育の授業は楽しいと感じている生徒の割合は高いので体育の授業を通して仲間と協力して運動することが楽しいと思える授業を目指す。	・駅伝出場は、生徒の自信にもつながる素晴らしい取組である。 ・放課後ランニング、持久走の練習を何度か拝見したが、皆が真面目に取り組む姿に感心した。 ・運動が苦手であっても楽しく授業に取り組むことで、体力向上にもつながっている。	A
	適切な部活動運営・指導	○ガイドラインに沿った部活動の実施。	◆部活計画の作成と計画に沿った活動ができており、適切な活動時間と休養を実施している。男女とも県の駅伝に出場することができた。	A	◆今後も継続する。	・各部活動の結果も日々の取組の成果である。	A
横断	地域との連携・協働	○主な行事、参観日への保護者の参加率 80%以上。 ○地域の協力を得た学習活動の実施。 ○町・地域行事等への協力。	◆体育大会・学習発表会・リサイクル回収はほとんどの家庭が参加協力してくれた。行事を含まない参観習慣は参加率が少ない。 ◆職場体験、防災学習等多くの事業所、団体等の協力や地域学校協働本部の支援により体験的な学習を行うことができた。 ◆町の祭りや駅伝等の地域行事への参加や、避難経路の清掃ボランティア等を行った。	B	◆地域の方から生徒の挨拶や日頃の活動に対するお褒めの言葉をいただくことができた。引き続き応援してもらえるよう地域との結びつきを高めていく。	・生徒の皆さんは、学校外でもこちらから挨拶をする前に必ず挨拶をしてくれ、本当に素晴らしいと感じる。 ・地域との交流を通して、生徒には社会性を身につけてほしい。学校として、今後も地域、保護者との連携を図っていただきたい。 ・中学生になると参観日に保護者が来ることを嫌がるので参観日への参加率は下がるのではないだろうか。	B
	安全教育・安全管理の推進	○県の指標に基づき避難訓練・防災学習を実施する。	◆学校評価「地震や災害等から身を守る安全についての学習や訓練を行うなど安全・安心な学校づくりを進めている」の肯定評価 90% ・計画に基づいて避難訓練と防災学習を実施できた。	A	◆引き続き必要な避難訓練や防災学習を実施する。本年度はごめんなはり線と協力して、列車乗車中の地震を想定した避難訓練の実施や、町役場の防災担当者による防災学習等を実施できたので、今後も様々な形で訓練や学習を実施したい。	・地域企業との防災訓練、行政との防災学習はとてもよい取組である。想定しない事態が起こっても対応できる生きた力につながる取組として、今後も継続していただきたい。 ・防災学習の充実により、生徒の意識も高まっている。さらに工夫した取組に努めていただきたい。	A
	不登校の予防と支援	○校内支援会を実施し情報共有を図る。 ○SC,SSW と連携し個に応じた支援を行う。 ○家庭との情報共有等連携を強化する。	◆不登校傾向の生徒については支援会で常に情報共有を行い、学年団を中心に本人・家庭とつながりながら支援を行い、少しずつではあるが改善傾向が見られる。 ◆SC・SSW と不登校傾向の生徒や情緒面で不安定な生徒の情報共有を行い、不安傾向の生徒については定期的に面談を実施した。 ◆各学年とも家庭との情報共有は密に行い、協力を得ながら対応している。	B	◆不登校傾向の生徒については、今後も家庭との連携し、本人に見通し等をもたせながら、少しずつ改善できるよう取り組んでいきたい。必要に応じて SC,SSW とつながりながら対応していく。	・学校、家庭と連携を図りながら支援を継続していただきたい。 ・支援の必要な生徒と家庭に焦らず諦めずに寄り添っていただきたい。	B
	働き方改革の推進	○時間外勤務＝月 45 時間以内(80%)をめざす。 ○校務支援システムを活用し業務の軽減を図る。 ○定時退校日、学校閉校日を設定する。	◆時間外勤務＝月 45 時間以内の達成率 72.5% ◆日程確認、文書回覧等、成績処理、出席入力等に活用 ◆設定はしているが、全員退校とはいかない。閉校日は、部活動の大会行事等で実質一部の教員にとどまっている。	B	◆働き方改革の意識はあるが繁忙期、コロナ後の部活の通常活動等で45時間以内が難しい現状がある。 ◆様々な機能の習得に向け情報共有を行う。 ◆全員が実施できる体制を模索する。	・教員の意義、人間性が基本である。教員の資質向上に努めていただきたい。	B
	ICTを活用した新しい学びの構築	○ICT の効果的な活用。 ◆東部教志塾の活用。 ○持ち帰りをする生徒を増やす。	◆ICT機器は、研修や教員同士の交流をもとにどの授業でも適宜活用できた。。町授業力向上シート2学期末「ICT が効果的に活用できた」3.4 ※4段階評価 ◆長期休業中は、全員持ち帰り、宿題等に活用している。平日は少ない。	B	◆ICTについては、引き続き効果的な活用について研究を進める。 ◆使用ルールを確認しながら、有効活用を進めていく。	・タブレットの日常的な持ち帰りは、一部生徒でなく全員が取り組めるように推進していただきたい。 ・ICT 教育についての生徒へのアンケートも取り、今後の取組への参考にしてはどうだろうか。	B